

>>> 図書探訪 「いわきの文学者 -詩人編-」 >>>

草野心平 くさの・しんぺい 明治36年(1903)～昭和63年(1988)

草野心平は、石城郡上小川村(現いわき市小川町)に生まれました。磐城中学から慶應義塾普通部を経て、中国広州の嶺南大学に学びました。亡兄民平やサンドバーグの影響から詩作を始めました。大正12年徴兵検査のため帰国の折、謄写版で詩集『廃園の喇叭(らっぱ)』を作りました。大正14年、同人詩誌「銅鑼(どら)」を創刊し、以後「学校」(昭和3年)、「歷程」(昭和10年)を創刊し、中心的役割を果たします。昭和3年、活版第1詩集『第百階級』を出版します。昭和25年、一連の「蛙の詩」によって読売文学賞を受賞し、昭和62年には、文化勲章を受章しました。

草野天平 くさの・てんぺい 明治43年(1910)～昭和27年(1952)

草野天平は、東京市小石川区(現東京都文京区)に生まれました。兄に民平と心平がいます。京都の平安中学を中退し、前橋の心平宅に寄寓し喫茶店の見習いののち、昭和8年、東京銀座に喫茶店「羅甸区(らてんく)」を開業します。その後、出版社の編集の仕事につきます。昭和17年、妻ユキの死後、詩作を始め、昭和22年、詩集『ひとつの道』を刊行します。昭和25年、詩作に専念できる場を求めて比叡山に行き、入居を許され松禅院にて詩作に没頭します。2年後の昭和27年42歳で没しました。7周忌の昭和33年には、後妻梅乃らによって『定本 草野天平詩集』が刊行されました。同書は、翌昭和34年第2回高村光太郎賞を受賞しました。

猪狩満直 いがり・みつなお 明治31年(1898)～昭和13年(1938)

猪狩満直は、石城郡好間村(現いわき市好間町)大字川中子に生まれます。私立磐城青年学校中退後、19歳頃から聖書研究と文学に傾倒し、同じ頃、義父との確執が表面化します。大正11年、同人詩誌「播種者(ばんしゅしゃ)の群」を創刊します。

大正14年4月、北海道釧路国阿寒郡舌辛村(現釧路市)に移住します。その後もいわき地域の詩誌への寄稿を続けます。大正15年9月、妻タケオが死去。昭和2年4月、小沼たかと再婚します。昭和5年12月に帰郷し、現いわき市内郷、長野県での生活を経て生家に戻り療養生活を送りました。

三野混沌 みの・こんとん 明治27年(1894)～昭和45年(1970)

三野混沌は、石城郡平窪村(現いわき市平下平窪)曲田に生まれます。本名は、吉野義也。磐城中学校を卒業後、好間村(現いわき市好間町)の菊竹山で開墾を始めます。大正6年、猪狩轍弥と「農夫」(農民の文芸雑誌)を創刊します。一時期、早稲田大学高等予科に進みますが中退し、再び開墾生活に戻ります。若松せいと結婚し、昭和2年に詩集『百姓』、詩集『開墾者』を、昭和29年には、詩集『阿武隈の雲』を刊行します。

中野勇雄 なかの・いさお 明治38年(1905)～昭和46年(1971)

中野勇雄は、石城郡平町(現いわき市平)に生まれます。筆名は、雄野勇。弟に大次郎。

磐城中学から東京商科大学専門部(現一橋大学)を卒業後、家業(中野洋品店)に就きます。磐城中学在学中に、小林直人(当時仙台)と「天鵝絨(びろーど)」を発行します。直人との二人詩誌「乾杯群」のほか、「路傍詩」、「RRR」、「突」、「無軌道」、「喇叭」、「海岸線」に参加します。詩集には『顔と樹』(北方詩社 昭和4年)があります。

中野大次郎 なかの・だいじろう 明治41年(1908)～昭和9年(1934)

中野大次郎は、石城郡平町(現いわき市平)に生まれます。筆名は、永崎貢。旧制磐城中学から旧制水戸高校を経て、東京帝国大学を卒業します。中学時代に兄勇雄の影響で短歌などを校友会誌に発表しました。水戸高校時代は、読書会キャップとして左翼活動などを行い、茨城警察に監視されたりもしました。東大では、高見順などと同人雑誌を発行し、プロレタリア文化運動に参加しながら小説なども書いていました。また、ドイツのフリードリヒ・ベンなどの詩人の作品の翻訳もしていました。花王石鹼長瀬商会宣伝部、ビクター蓄音機会社宣伝部などに勤務します。26歳で急逝しましたが、没後友人たちが『中野大次郎遺稿集』を編んだおかげで、作品の散逸はまぬがれました。

高瀬勝男 たかせ・かつお 明治38年(1905)～昭和58年(1983)

高瀬勝男は、石城郡平町(現いわき市平)に生まれます。磐城中学校(現磐城高等学校)を中退し、画家でもあった勝男は、昭和2年7月、平で詩と絵の街上展覧会を三野混沌と行いました。昭和5年12月には、三野混沌・吉野せい夫妻の次女梨花の死顔のスケッチを描いています。昭和10年、平のマルトモホールにて個展を開催します。昭和14年には、二科展入選を果たします。炭鉱や印刷関係の仕事を経て、昭和26年から54年まで、自宅にて児童を中心とした絵画教室を開きます。昭和36年、丸ノ内の中央公論社丸ビル画廊にて個展の開催、昭和49年には平の草野ホールにて水彩画展を開催しました。

波立 ー はりゅう・はじめ 明治41年(1908)～昭和12年(1937)

波立ーは、石城郡好間村(現いわき市好間町)に生まれます。旧制平商業学校卒業後、画家を目指し上京し、プロレタリア芸術連盟美術部(RA)に所属します。「労農ロシア展覧会」、「第1回プロレタリア美術大展覧会」などに油画作品を出品し、好評を得ました。一方で詩も書き、その作品は「プロレタリア芸術」、「戦旗」に掲載されて新進詩人として期待されましたが、昭和5年千葉県習志野の鉄道連隊入営中に、反軍思想の新聞を配り逮捕されました。中野重治の証言によれば、入営前に改造文庫の『女工哀史』の装幀をしたといえます。除隊後は生活の混乱のなか、幼い長男を亡くすという不幸に見舞われ、精神を病み、東京の松沢病院で治療中に29歳で死去しました。

日野利春 ひの・としはる 明治42年(1909)～昭和54年(1979)

日野利春は、石城郡磐崎村大字上湯長谷字小野田(現いわき市常磐上湯長谷町)に生まれます。磐城中学から新潟高等学校(現新潟大学)に進学しますが、農民運動に没頭して除籍になります。その後、東京帝国大学文学部仏文科の聴講生となり作家を志します。昭和4年、小説「地の後裔(すえ)」を書きます。昭和20年には、日本社会党石城支部の書記長に就任します。翌年、詩人・三野混沌を知り、24年に詩集『地の後裔』、28年には詩集『ひびかぬもの』を刊行します。混沌との二人詩誌「否」を3号刊行しています。

上田令人 うえだ・れいじん 明治45年(1912)～昭和63年(1988)

上田令人は、石城郡大野村(現いわき市四倉町)に生まれます。本名は、植田親愛(ちかよし)。別筆名は、上田冷人。福島師範在学中、「日本詩壇」同人となります。昭和10年に上京し、昭和12年に「詩層」(後「新詩潮」と改題)を編集発行します。浅草で写真展を開きますが、昭和20年、石城郡好間村(現いわき市好間町)に疎開し、NHK平放送局に勤務します。平市(現いわき市平)北目に転居後は、自宅で印刷業を始めます。詩誌「火山系」を主宰し、同誌には三野混沌も寄稿しています。いわき市内の好間中学校校歌、好間第三小学校校歌、平第二小学校音頭を作詞しています。

◇◇◇◇◇◇ 展 示 資 料 ◇◇◇◇◇◇

- ◆『第百階級』草野心平 成瀬書房 昭和56年2月(K/911.5/ク)
- ◆『日本沙漠』草野心平 青磁社 昭和23年5月(SK/911.5/ク)
- ◆「温泉の思ひ出」自筆原稿 草野心平(SK/914.6/ク)
- ◆『ひとつの道』草野天平 十字屋書店 昭和22年6月(K/911.5/ク)
- ◆『定本 草野天平詩集』草野天平 彌生書房 昭和33年11月(SK/911.5/ク)
- ◆『移住民』猪狩満直 銅鑼社 昭和4年8月(平成12年4月復刻)(SK/911.5/イ)
- ◆『農勢調査』猪狩満直 海岸線社 昭和6年3月(三猿文庫 島田春夫資料)
- ◆『或る品評会』三野混沌 海岸線社 昭和6年3月(三猿文庫 島田春夫資料)
- ◆『阿武隈の雲』三野混沌 昭森社 昭和29年8月(KS三猿/911.5/ミ)
- ◆「突」2 中野勇雄 突社 昭和2年8月(三猿文庫 島田春夫資料)
- ◆『顔と樹』中野勇雄 北方詩社 昭和4年10月(三猿文庫資料)
- ◆「サイレン」創刊号 佐藤清長編 サイレン社 昭和6年2月(三猿文庫 島田春夫資料)
- ◆『中野大次郎遺稿集』中野大次郎遺稿集刊行会 昭和10年5月(KS三猿/918/ナ)

- ◆『赤の班点 第2』高瀬勝男 喇叭社 昭和5年4月(三猿文庫 島田春夫資料)
- ◆「無軌道」6月号(2号)三野混沌編 マルトモ柴田書店 昭和3年6月(三猿文庫資料)
- ◆「詩南車」第17輯(第3巻第5号)片寄耿二編 詩南社 昭和3年6月(三猿文庫資料)
- ◆『詩集 波立』郷武夫編 構図社 平成14年11月(K/911.5/ハ)
- ◆「火山系」4月号No.3 上田冷人編 火山系詩社 昭和28年4月(三猿文庫資料)
- ◆『田園心象』上田冷人 火山系社 昭和28年4月(三猿文庫資料)
- ◆『地の後裔』日野利春 公友社 昭和24年1月(SK/911.5/ヒ)
- ◆『ひびかぬもの』日野利春 第三書房 平成28年7月(SK/911.5/ヒ)

◇◇◇◇◇◇ 参 考 資 料 ◇◇◇◇◇◇

- ◆『草野心平詩全景』草野心平 筑摩書房 昭和48年5月(SK/911.5/ク)
- ◆『草野心平-その人と芸術-』いわき市立草野心平記念文学館 平成7年8月(SK/911.5/ク)
- ◆『草野心平』いわき市立草野心平記念文学館 平成10年7月(SK/911.5/ク)
- ◆『《挨拶》草野天平の手紙』草野天平 彌生書房 昭和44年7月(SK/911.5/ク)
- ◆『定本草野天平全詩集』草野天平 彌生書房 昭和62年4月(SK/911.5/ク)
- ◆『草野天平 企画展図録』いわき市立草野心平記念文学館 平成10年7月(K/910.2/イ)
- ◆『猪狩満直全集』猪狩満直全集刊行委員会 纂修堂(SK/918/イ)
- ◆『猪狩満直詩集』猪狩満直 いわき地域学会出版部(SK/911.5/イ)
- ◆『猪狩満直 企画展図録』いわき市立草野心平記念文学館 平成10年12月(K/910.2/ク)
- ◆『暮鳥と混沌』吉野せい 弥生書房 昭和50年8月(SK/911.5/エ)
- ◆『土と修羅-三野混沌と吉野せい-』新藤 謙 たいまつ社 昭和53年8月(SK/910.2/ミ)
- ◆『三野混沌展 図録』いわき市立草野心平記念文学館 平成12年9月(K/911.5/ミ)
- ◆『否』三野混沌 日野利春 犀書房(K/911.5/ミ)
- ◆『日野利春遺稿集』白井欽一監修 犀書房 昭和61年7月(SK/911.5/ヒ)
- ◆『福島県文学全集』澤 正宏 郷土出版社 平成14年11月(K/918/フ/6)

<p>会 期 : 平成25年(2013)6月7日(金)～9月29日(日)</p> <p>会 場 : いわき市立いわき総合図書館 5階 企画展示コーナー</p>
